

福祉用具サービス目標 チェックポイント!

□ 予後予測を前提に目標が設定されているか

- 利用者の疾患や障害の状況はそれぞれ異なります。
以下の状況について該当するか検討し、該当する場合は
それに配慮した目標となっているか確認しましょう。



- 進行性疾患による生活機能の低下
- 脳血管障害・骨折等の急性発症性疾患での退院後の生活期での機能改善
- 骨関節疾患・加齢による心身機能の低下に伴う廃用症候群の改善
- 福祉用具による生活範囲の拡大、社会参加による心身機能の向上

□ 意欲が出る、自ら取り組もうとする目標設定であるか

- 福祉用具は利用者の「したいこと」を実現するための手段です。
加齢や疾病による生活機能の低下で、あきらめていたこと、人の助けを受けていた
ことについて福祉用具によりできることを見つけることが目標設定です。
- 生活歴、趣味、地域・友人との関係、1日の過ごし方などから、
利用者や家族が自ら望んで「やりたいこと」(目標)を探します。
- 【興味・関心チェックシート(P.20)】を活用しましょう。



□生活活動の頻度や回数等、客観的に変化を捉える目標となっているか

- 前述(自立支援における福祉用具 P5)のようにそれぞれの福祉用具はそれぞれの機能によって生活動作や生活関連動作を「補助」「代償」します。その結果、①一人で行えること(動作)を増やす

②心身の機能を維持・改善する

③生活圏域を増やすといった効果を発揮します。

- 生活動作や生活関連動作の頻度や回数、使用する生活場面を明確にし、その結果としての効果を示します。

- 具体的な目標の書きぶりは「～(動作)したいので、(福祉用具)をどのくらい(頻度・回数)どこで利用します」といった文脈となります。目標が明確になることで、モニタリング時に目標の達成状況が把握でき、その後の福祉用具サービス計画の見直しに役立ちます。



□モニタリングの方法や支援者の役割が明確になっているか

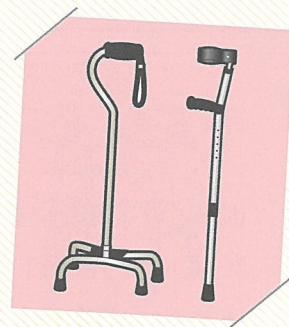
- モニタリングは、福祉用具の利用状況を確認し、福祉用具サービス計画どおりに福祉用具が使用されているか、福祉用具に不具合や故障はないかを確認することです。
- 福祉用具や他のサービスによる高齢者の状態やニーズの変化をとらえ、ケアプランとともに福祉用具サービス計画を見直します。
- モニタリングは福祉用具専門相談員だけでなく、ケアメンバーが福祉用具の目的、機能を理解し、訪問介護、通所介護等のそれぞれの介護の現場で、福祉用具のモニタリングの役割を担うことが大切です。



屋外移動

(歩行補助つえ・歩行器(車)、車椅子・電動車椅子)

屋外移動の方法は屋内移動と同様に、歩くか車椅子を使用するかに大別されます。
また、それぞれの福祉用具の機能は屋内移動と同様です。



歩行補助つえ・歩行器(車) チェックポイント!

- ☐ 目的地までの途中で疲れないか、トイレや休息場所があるか
- ☐ 青信号の間に道路を渡り切れるか
- ☐ 人混みでもぶつからずに歩けるか



車椅子・電動車椅子 チェックポイント!

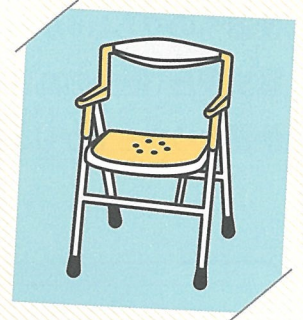
- ☐ 車椅子のサイズは合っているか、適切な座位姿勢がとれているか
- ☐ 段差乗り越えや回旋などの操作、ブレーキ操作は可能か
- ☐ 車椅子を使用する目的地までの環境(路面の状況、歩道と車道の段差、坂・傾斜、踏切、交通量等)を実際に確認したか
- ☐ 電動車椅子の充電場所、充電操作について確認したか
- ☐ 目的地までの途中で疲れないか、トイレや休息場所があるか
- ☐ 目的地では車椅子・電動車椅子を使えるか
- ☐ 買い物等の荷物を運搬できるか



入浴

(入浴用椅子、浴槽用手すり、浴槽内椅子、入浴台等)

入浴は、浴室までの移動、衣類の着脱、浴室内での移動、洗い場での洗体、浴槽への出入り等の動作があります。浴室までの移動は屋内移動を参照してください。ここでは、浴室内での動作を支援する入浴用椅子、浴槽用手すり、入浴台等のチェックポイントを示します。



チェックポイント!

- ☐ 衣類を着脱しやすい場所、姿勢、衣類の種類、自助具等を検討したか

- ☐ 下肢装具を取った後の歩行は安定しているか

- ☐ ドアの開閉、入口の段差昇降はできるか

- ☐ 洗体用椅子の立ちしゃがみは安全か

- ☐ 安定して洗体できる姿勢(床座位、椅子座位、立位)や洗体方法を確認したか

- ☐ 浴槽の出入り・立ちしゃがみは安全か
 - ☐ 浴槽の出入りの安全性「立ち跨ぎ」が危険なら「座り跨ぎ」に変更する
 - ☐ 浴槽移乗は安定しているか
 - ☐ 浴槽内で身体が安定しているか
 - ☐ 浴槽内での立ちしゃがみの安全性

